

「地域住民参加型防災訓練」 による防災支援活動

宮坂建設工業株式会社 土木本部グループ長 齋藤 宏明

弊社は、北海道十勝平野の中心に位置する帯広市に本社を置き、大正11年に創業、今年で創業90年を迎え、一貫して地域社会への貢献を念頭に北海道の開発・発展に伴う土木・建築を手がけてきました。現在では札幌支店・釧路支店を有し、完成工事高200億円、従業員180名、グループ会社5社の中核を成しています。

近年はトンネル・橋梁・高層建築など難易度の高い物件を数多く手がけ、「高品質な成果品の提供」、「技術開発の促進」、「優れた人材の育成」を基本に、建設活動を通じ地域社会に貢献できるよう努力しているところです。



▶十勝沖地震による被害状況

1 十勝地方における自然災害

広大な土地資源を有する十勝地方では、近年においても数々の自然災害を受けています。

十勝地方の沖合を震源として起こる十勝沖地震の想定規模はマグニチュード（M）8前後、発生間隔は約60～80年と見られており、これまでM8クラスの地震が1843年、1952年、2003年と繰り返し発生しています。この他、釧路沖・三陸沖を震源とする地震の影響も受けることから、十勝地方は地震被害の多発地帯となっています。

さらに、小雨地域であるため大雨に対して脆弱であり、台風等の風水害により土砂崩れや道路損壊の被害が数年おきに発生しています。この他、平成元年の十勝岳噴火・めあかんだけ平成20年の雌阿寒岳噴火などの火山災害、大雪による雪害災害など自然災害の種類は多岐にわたっています。

2 地域防災への取り組み

弊社は日頃より、台風等による異常気象時または、地震などによる災害発生の際に備えて対策本部を設置し、地域社会に貢献できるよう協力会社を含め、人資機材、機械等を準備し、24時間防災体制を整えて



▶ 釧路沖地震による築堤崩壊復旧作業



▶ 台風災害による東日本高速道路復旧作業

います。これら緊急時にスムーズな活動ができるよう、平成5年より近隣河川堤防にて防災訓練を実施しております。この間、釧路沖地震による築堤崩壊復旧作業や台風災害による東日本高速道路復旧作業、雪害によるJ R北海道の復旧作業などの緊急災害対応に出動しています。

平成15年9月26日に十勝沖地震（M7.1）が発生、この影響により広い範囲で停電、断水し、約38万世帯が被害を受け、約4万人が避難しています。北海道東部の各地方都市を結ぶ鉄道・道路・橋梁も各地で多数破損したため、一時道東地方の交通は全面ストップし、主要道路の通行止め解除には数日、完全な復旧には数か月を要しています。

この地震による被災を契機に当年から、

第18回 防災訓練

宮坂建設工業株式会社
地域住民参加型

入場無料！

と き 平成22年9月3日（金）
（11時より一般開放）

と ころ 帯広市中央公園（第二部）
（帯広市西4条南6丁目）

第一部（9:00～11:00）

- 河川パトロール
- 建物パトロール
- 現場パトロール

第二部（11:00～15:00）

- 水防訓練（土のう積み訓練）
- 無線式油圧ショベル機搬運転
- ロープ結び体験
- 煙体験
- 応急措置の実演
- 炊き出し訓練（試食）
- 消火訓練（バケツリレー）
- 土のうづくり体験
- 地震体験車の試乗
- 空中撮影システムの実演




協賛と運営で幅広い事業を展開する
宮坂建設工業株式会社
MIYASAKA CONSTRUCTION & ENGINEERING

お問い合わせ
TEL 0155-23-9151 / FAX 0155-24-1577
本社 / 帯広 / 札幌 / 函館

▶ 第18回地域住民参加型防災訓練のポスター

近年の大規模地震、大雨洪水災害等の激増を踏まえ、大規模な災害から地域住民の皆様安全を守ることを第一に、被害軽減、二次災害防止、早期復旧、さらに一般市民の皆様にも日々の防災に対する意識を高く持っていただくことを目的として、地域住民と一体となった「地域住民参加型」に内容を変更し防災訓練を行うこととしました。

3 地域住民参加型防災訓練

「地域住民参加型防災訓練」は創業者宮坂寿美雄の遺訓「世の為人の為につくせ」の信条のもと、社会貢献活動を積極的に実践してきた活動のひとつです。それでは、平成22年9月3日に実施いたしました地域住民参加型防災訓練について紹介させていただきます。

地域住民参加型防災訓練は二部構成で、第一部は弊社単独の災害対応訓練として、震度5強の地震発生を想定し本社に災害対



▶河川パトロール(橋梁点検)状況

策本部を設置、テレビ会議システムにて札幌支店、施工中の第1北見ヶ丘トンネルと連携を図り、河川災害復旧協定で実施する河川初期現地点検、及び建物点検・施工中の現場点検パトロールを実施しました。

弊社では独自に「災害対応マニュアル」を制定し、震度5弱以上の地震が発生した場合発注者からの出動要請の有無にかかわらず、地震発生直後速やかに初期現地点検を実施するものとされており、報告は概ね30分毎に行うこととしています。河川点検箇所毎に9班の河川パトロール班を編制し各班の班長が無線機・点検備品を車に常備し、速やかに出動できる態勢としています。

防災訓練第二部は、地域住民参加型として市街中心部の公園広場を利用して北海道警察帯広警察署、帯広市消防本部、日立建機(株)の協力をいただき水防訓練・無線操縦システムの実演、また地域住民の方々に参加を募り、防災活動を体験していただきました。

水防訓練では、広域な被災による交通規制を想定し、帯広警察署と連携を図りパトカーの先導による緊急物資を搬入し、築堤決壊を想定した、職員・直営作業員による月の輪工法・土納荒締切工法の実演訓練を行いました。これら土納袋による亀裂の穴埋め、築堤の嵩上げ作業は災害時に広く用いられる工法といえます。



▶双腕作業機の実演

特殊機械の展示・実演コーナーでは、無線操縦システムでの油圧ショベル・キャリアアダンプの模擬運転や日立建機(株)とNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)とで共同開発された2本のアームを持つ双腕作業機の実演展示を行いました。普段目にするのことがない特殊な機械は、市民の皆様の強い関心を得ました。また、様々な条件下で対応できる特殊機械は、災害対応の選択を広げる事ができ、今回の東日本大震災の復旧作業にも数多く使用され活躍しています。

起震車で地震体験コーナーでは、過去に発生した関東大震災、十勝沖地震、新潟中越地震、南西沖地震、阪神・淡路大震災等の大地震の他、将来起こると予想される東海地震を想定した震度7も体感できました。十勝地方では震度3・4程度の地震は頻繁に発生しており、比較的地震慣れしている人も多いのですが、震度7の疑似体験は別格のようでした。

小学生・高校生には課外授業の一環として訓練に参加していただきました。昔ながらのバケツリレーによる消火訓練や実用的なロープ縛り・土納作成等の体験訓練の他、応急処置・AEDの使用方法などを楽しみながら学習していただきました。

この他会場では、ビル火災等の疑似体験ができる煙体験コーナーや、遠隔操作で空



▶消火訓練(バケツリレー)



▶地域住民参加型防災訓練 会場全景

中からの映像をリアルタイムに確認できる空中撮影システム「スカイキャッチャー」の実演等の他、地域住民の方々に日々の防災について関心を持っていただけるよう防災パネルの展示、「NPOもしも北海道」の協力を得て防災グッズの展示・実演も行っています。

弊社社員による炊き出し訓練ではカレーライス・豚汁など毎年メニューを変え大量に素早く作成するノウハウについて確認しました。会場にお越しの皆様に試食していただき、配膳・片付け方法など課題の抽出を行い作業の向上を図っています。

＊

＊

以上が、弊社で実施している地域住民参加型の防災訓練です。防災訓練は今年で第19回目で、地域住民参加型に形を変えてから9回を迎えました。この間、大変多くの



▶三角巾による応急措置の実演

方々に参加・協力していただき、目的である地域住民の皆さんの防災意識の向上に微力ながら貢献できていると自負しています。十勝地方を襲った過去の地震災害においても被災規模の割に人的被害が少ないのは、地元住民の防災意識が高く、さらに地元防災関係者の迅速、適切な広報活動と厳戒態勢が功を奏しているといえます。

4 社会貢献活動の今後に向けて

東日本大震災で防災活動の重要性が改めて見直される中、大規模災害から地域住民を守ることはわれわれの使命ですが、これは弊社だけが防災訓練をしていれば良いというものではありません。地域と一体となって訓練することで、はじめて万が一に備えられると考えています。創業者の遺訓である「世の為人の為につくせ」を今後も忠実に守り、これからも社会貢献活動の強化に努めていきたいと思っています。

今年の第19回地域住民参加型防災訓練は9月2日に開催し、小雨交じりのあいにくの天候ではありましたが、東日本大震災により防災に対する関心が高まったこともあって、過去最高の2,100名の方々にご参加いただきました。

また、趣旨に賛同をいただき参加企業も年々増え、活動の幅を広げています。